



CHAPTER 37

TelePresence E911 IP Phone サポートの設定

特に明記しない限り、スイッチという用語はスタンドアロン スイッチおよびスイッチ スタックを意味します。

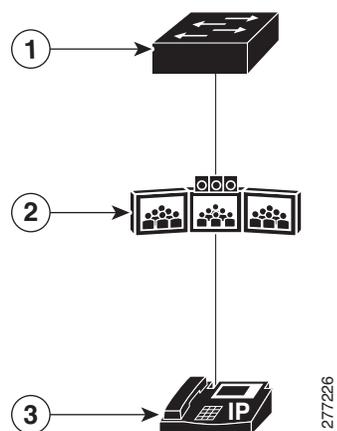
Catalyst 3750 スイッチ コマンド リファレンスに、コマンドの構文と使用方法が説明されています。

- 「[TelePresence E911 IP Phone サポートの概要](#)」 (P.37-1)
- 「[TelePresence E911 IP Phone サポートの設定](#)」 (P.37-2)

TelePresence E911 IP Phone サポートの概要

Cisco IP Phone は、Cisco TelePresence システムにおけるユーザ インターフェイスとして使用できます。図 1 を参照してください。この構成では、IP Phone を常にオンにして、緊急通報に使用できるようにしておく必要があります。Cisco TelePresence システムのコーデックの電源に障害や中断が発生したり、コーデック自体に障害が発生したりすると、IP Phone を使用できなくなります。

図 37-1 電話機、コーデック、スイッチ間の接続



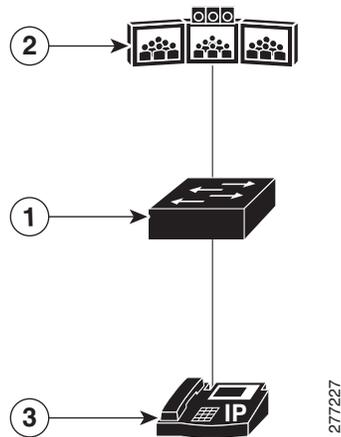
1	スイッチ	3	IP Phone
2	コーデックを搭載した Cisco TelePresence システム		

IP Phone を常にオンにして、緊急通報に使用できるようにしておくためには、TelePresence E911 IP Phone サポート機能を使用します。CDP 対応 IP Phone がスイッチを介してコーデックに接続されている場合、CDP パケットを IP Phone から Cisco TelePresence システムのコーデックだけに転送するようにスイッチを設定できます。スイッチは、入力ポートと出力ポートのペアを CDP フォワーディング テーブルに追加します。入力ポートと出力ポートのペアは、IP Phone に接続された入力スイッチ ポートとコーデックに接続された出力スイッチ ポートの間の 1 対 1 のマッピングです。

IP Phone とコーデックは、IP ネットワークを介して通信します。コーデックの電源に障害や中断が発生したり、コーデック自体に障害が発生したりしても、IP Phone は IP ネットワークに接続された状態で維持され、緊急通報に使用できます。

スイッチは、入力ポートで受信されたすべての CDP パケットを出力ポートに転送します。スイッチの単一のポートを介して複数の IP Phone がコーデックに接続されている場合は、1 台の電話機だけが IP ネットワークを介して通信できます。この電話機は、通常、コーデックによって受信された最初の CDP パケットを送信した電話機です。

図 37-2 電話機、スイッチ、コーデック間の接続



1	スイッチ	3	CDP 対応 IP Phone
2	コーデックを搭載した Cisco TelePresence システム		

TelePresence E911 IP Phone サポートの設定

- 「設定時の注意事項」 (P.37-2)
- 「TelePresence E911 IP Phone サポートのイネーブル化」 (P.37-3)
- 「例」 (P.37-3)

設定時の注意事項

- TelePresence E911 IP Phone がサポートされた、CDP 対応の電話機のみを使用してください。
- Cisco TelePresence システムの IP Phone とコーデックは、スイッチ スタック内の任意の 2 ポートを介して接続できます。

TelePresence E911 IP Phone サポートのイネーブル化

特権 EXEC モードで実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cdp forward ingress <i>port-id</i> egress <i>port-id</i>	入力ポートと出力ポートのペアを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ingress <i>port -id</i> : CDP 対応 IP Phone に接続されたポートを指定します。 egress <i>port-id</i> : Cisco TelePresence システムのコーデックに接続されたポートを指定します。 このステップを繰り返して、追加の入力ポートと出力ポートのペアを設定します。
ステップ 3	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 4	show cdp forward	入力ポートと出力ポートのペアを確認します。コマンド出力では、転送され、ドロップされたパケット数も表示します。
ステップ 5	copy running-config startup config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

例

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# cdp forward ingress gigabitethernet2/0/1 egress gigabitethernet2/0/12
Switch(config)# cdp forward ingress gigabitethernet2/0/1 egress gigabitethernet2/0/13
Ingress interface already configured
Switch(config)# cdp forward ingress gigabitethernet2/0/2 egress gigabitethernet2/0/12
Egress interface already configured
Switch(config)# cdp forward ingress gigabitethernet2/0/2 egress gigabitethernet2/0/13
Switch(config)# end
Switch#
*Mar 1 13:38:34.954: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
Switch# show running-config | include cdp
cdp forward ingress GigabitEthernet2/0/1 egress GigabitEthernet2/0/12
cdp forward ingress GigabitEthernet2/0/2 egress GigabitEthernet2/0/13
Switch# show cdp forward
```

```
Ingress      Egress      # packets      # packets
Port         Port         forwarded       dropped
-----
Gi2/0/1      Gi2/0/12      0                0
Gi2/0/2      Gi2/0/13      0                0
```

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# no cdp forward ingress gigabitethernet2/0/1
Switch(config)# end
Switch#
*Mar 1 13:39:14.120: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from console by console
Switch# show running-config | include cdp
cdp forward ingress GigabitEthernet2/0/2 egress GigabitEthernet2/0/13
```

```
Switch# show cdp forward
Ingress      Egress      # packets   # packets
Port         Port         forwarded   dropped
-----
Gi2/0/2      Gi2/0/13    0           0

Switch#
```